

1 単元名 自分たちの考える未来の町づくりについて役場の方にプレゼンテーションで提案しよう
～中核教材 町の幸福論—コミュニティデザインを考える～

2 単元について

<本単元で取り上げる指導事項>

A 話すこと・聞くこと

イ 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと

エ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること

<児童の実態>

--

<教材の特質>

中核教材は、コミュニティデザインという考え方の紹介を中心にしながら、大きな2つの視点に基づいて、事例を挙げてわかりやすく述べている。また、序論・本論・結論の構成が明確で、双括型の構成とみることができる。さらに、筆者の主張や事例を理解しやすくするために写真や図表の資料が用いられ、複数の事例と資料を活用しながら説明している。これは、児童が行うプレゼンテーションの効果的な構成につなげることができる。

<単元を貫く言語活動とその特徴>

自分たちの考える未来の町づくりについて役場の方にプレゼンテーションで提案しよう
本単元では、自分たちの町の未来について、プレゼンテーションを行うという言語活動を設定した。ある事柄についてプレゼンテーションを行う場合、まず、情報を集める力が必要となる。また、集めた情報を、自分の発表の目的に合わせて取捨選択したり、加工したりする力も大切になってくる。そして、その情報をいかに効果的に見せ、説明するかというプレゼンテーションに必要な力とともに、複数の資料から読み取った情報を効果的に活用する力も育てることができると考える。また、資料等を提示しながら説明や報告をする活動を通して、目的に合わせてわかりやすく伝える話し方を学ぶこともできると考える。これは、子どもたちにとって、将来に生きて働く力につながっていくと思われる。

<本単元の授業づくりにあたって>

一次では、指導者が住んでいる町づくりについて作成したプレゼンテーションを提示することで、児童が興味をもって学習に取り組めるようにする。自分たちの住んでいる町について考えてプレゼンテーションを行うという学習の見通しがもてるようにする。
二次では、中核教材を読むことで、プレゼンテーションを行うにはどのような論の展開をしていけばよいのか、また、どのような情報や資料を用いれば説得力を増すことができるのかを考えるようにする。
三次では、二次で学んだ文章構成や資料の活用方法を生かして、資料などを活用しながら情報を収集する。その際、本だけでなく、伯耆町から出されている町づくりに関する広報誌なども活用しながら、教材文で読み取った「人と人とのつながり」をつくるという観点を基盤に、プレゼンテーションに生かせる情報を収集する。グループでの話し合いを通して必要な情報を取捨選択し、効果的な用い方を意識して構成を考える。そして、実際に町づくりにかかわっておられる役場の方を招いてプレゼンテーションによる発表を行い、役場の方から意見をいただいたり、提案の内容や発表の構成、わかりやすさについて意見の交流を行ったりするようにする。

<本単元の目標と評価規準>

国語への関心・意欲・態度	話す聞く能力	言語についての知識・理解
・自分の課題を解決するために必要な情報を得ようと進んで複数の資料を比べて読み、多面的に情報で収集しようとしている。	・目的に応じて話の構成や資料の見せ方を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで話している。	・目的に応じた文章の構成について理解している。

【改善】 単元全体を、問題解決的な学習展開にすることも考えられます。

①児童がプレゼンテーションを作成する ②課題感をもつ

③教材文で話の構成や効果的な資料の見せ方を学ぶ ④プレゼンテーションを再構成する。

3 単元構想

次	主な学習活動	評価規準【 】と評価方法（ ）
一	1 ○学習のめあてを知り、学習計画を立てる。 ・自分たちの考える町づくりについてプレゼンテーションをすることを示し、そのための筆者の工夫に着目できるようにする。 ・プレゼンテーションについて知る。 ・学習計画を立てる。 ※並行読書スタート	<p>自分たちの考える未来の町づくりについて役場の方にプレゼンテーションで提案しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町づくりについて関心を持ち、進んで学習に取り組もうとしている。 【関】(ワークシート・発言)
二	2 ○教材文の文章構成をおさえる。 ・文章全体の構成を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> ・説明的な文章における文章全体の構成を理解している。【言】(ワークシート)
	3 ・序論を読み、コミュニティデザインについて知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・序論部分に書かれている内容を読み取っている。【読ウ】(ワークシート)
	4 本時 ・筆者の論の展開の仕方や資料の示し方に着目しながら本論1を読んでつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・資料と本文を対応させ、筆者の工夫をとらえている。【読ウ】(発言・ワークシート)
	5 ・筆者の論の展開の仕方や資料の示し方に着目しながら本論2を読んでつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・資料と本文を対応させ、書き方から筆者の工夫をとらえている。 【読ウ】(発言・ワークシート)
	6 ・筆者の主張を確認し、町づくりについての自分の考えをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・結論の段落から筆者の主張を受けた自分の考えをまとめている。 【読ウ】(ワークシート)
三	7 ○プレゼンテーションに向けて準備する。	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて、本や資料などから複数の情報を集め、関係づけて活用している。 【読カ】(ワークシート・発言)
	11 ・プレゼンテーションに向けて、構成を考えたり、資料や情報を整理したり、練習したりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・調べてわかったことや考えたことを関連付け、発表の内容や必要な資料を考えている。 【話聞イエ】(ワークシート・発言)
	12 ・役場の方を招いて、自分たちが考える未来の町づくりについてプレゼン 13 テーションを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて、話の構成を工夫し、場に応じた適切な話し方で話している。 ・話し手の考え方を理解し、自分の意見と比べながら聞いている。【話聞イエ】(発表)

4 本時の学習 (4 / 13)

- (1) 目標 本論1の構成と資料の具体例の示し方に着目しながら説得力のある表現方法を読んでつかむことができる。
- (2) 準備 ワークシート
- (3) 学習過程

学習活動	指導・支援 (○) と評価 (*)
<p>1. 本時のめあてを確認する。</p>	<p>○聞き手が納得できるプレゼンテーションにするために、文章の構成や資料の提示の仕方を読んでつかむことを確認し、読みの必然性がもてるようにする。</p>
<p>説得力のある文章にするための筆者の工夫をつかもう。</p>	
<p>10の視点① 本時で学ぶべきことをめあてとして明確に示し、児童と共有しています。筆者の表現の工夫をつかむことで、プレゼンテーションをよりよくしようという児童の目的意識につなげることができます。</p>	
<p>2. 本論1の2つの事例について読み取る。 <事例1> 栃木県益子町 土祭 <事例2> 兵庫県三田市 有馬富士公園</p>	<p>○重要な点の一つ目が「住民が主体的に町づくりに取り組むこと」であり、そのために2つの例が挙げられていることをおさえる。 ○取り組みと結果を示すことが、説得力を増す工夫の一つであることをおさえる。 ○板書の際に、事例ごとに筆者の工夫をまとめていくことで、対比できるようにする。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【改善】 学習活動4につなげるために、事例についてまとめる際に、主体、取組、結果だけでなく、それぞれの事例ごとの筆者の工夫が対比できるような表に板書していくこととした。その際、あらかじめ準備しておいた教材文のコピーを貼っていくことで、筆者の工夫について話し合う活動の時間を十分に確保できるようにする。</p> </div> <p>○筆者が伝えたい内容に合った資料を選んでいることをおさえる。 ○資料と本文を関係づけてとらえさせるようにすることで、資料の効果を確かめることができるようにする。</p>
<p>10の視点③ 筆者がなぜその資料を選んだのかを考えさせることによって、自分の主張をより具体的かつ効果的に伝えるためには、資料を適切に選択する必要があるということに気付かせるようにします。この気付きは、実際にプレゼンテーションを作成する際に役立てることができます。</p>	
<p>3. 説得力のある文章にするための筆者の述べ方の工夫について話し合う。 【予想される児童の反応】 ・事例1では写真が、事例2では、グラフ、表を使っている。 ・グラフから読み取れることを書いている。</p>	<p>○個人、グループ、全体の順で話し合う。 ○まとめた表をもとにして事例1と事例2を比較してどんな資料があればいいのか考えていくようにする。 ○聞き手の立場で考えることをおさえ、説得力を意識した工夫になるよう声をかける。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・数値を使って説明している。 	
<p>4. 自分なら、さらにこうしたいという工夫について話し合う。</p> <p>【予想される児童の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんなグループが生まれたのかを具体的に書いていくといい。 ・事例2でも写真を使うといい。 ・どんなプログラムがあるのかを具体的に示すといい。 ・参加した人の感想があるといい。 	<p>*本論1で行っている筆者の工夫や、さらに必要だと思う工夫について読んでつかんでいる。 (読む：発表・ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○筆者の論の展開の工夫や資料を使った効果的な伝え方や本時の振り返りを書くよう声をかける。 ○次時は本論2の資料の示し方に着目しながら読み進めていくことを知らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>10の視点⑦</p> <p>児童の様子を具体的に想定しておくことで、個に応じた手立てや支援を充実することができます。工夫を見つけることができた児童への支援も具体的に想定しておき、すべての子どもが時間いっぱい学びきることがすることが重要です。</p> </div>
<p>5. 本時のまとめをする。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>10の視点⑧</p> <p>学習の感想や分かったことを書くだけの振り返りではなく、「筆者の工夫をふまえて、自分ならどうするか」と問い直すことによって、本時の学習に対する自分の考えをさらに深めることができます。</p> </div>